

まちづくり探検隊は行く! 合い言葉は市民・行政との『協働』

コラボレーション

Zoom In

視察レポート

協働のまちづくり先進地

箕面市・橋本市長に

突撃インタビュー!!



橋本 卓 はしもと・たかし 1938年生まれ。59年神戸大学教育学部2年過程修了。62年箕面市役所に奉職。秘書課長、企画室長、総務部長等を経て、89年助役に就任。93年9月箕面市長に当選し、現在2期目。

コラボレーション 協働のまちづくりって何?

「協働」のまちづくりとは市民・行政の役割を見直し、共通の目標に対して対等な開かれた関係で共に取り組んでいくことです。そのためには、政策の立案過程から実施過程までのあらゆる段階に市民の声を反映させることが必要となってきます。最近では、英語でコラボレーションといいます。



Q (社)三原青年会議所 市民が主役のまちづくり委員会(金田和宏委員長)は、「市民参加条例」というユニークな条例を制定して全国的にも話題になった「協働」のまちづくり先進地、箕面市を訪れました。箕面市は、大阪府の北西部に位置し、市域の3分の2が「明治の森箕面国定公園」を含む、自然環境・住環境に恵まれた人口12万5000人の都市です。私たちはまちづくり探検隊として当市の橋本市長にお話を伺うことが出来ましたのでご紹介します。

Q まちづくり探検隊 橋本市長のまちづくりに対する考え方を教えてください。

A 橋本市長 私は市長に就任以来、「市民主役・市民主権・市民協働」をまちづくりの基本理念にしてきました。まちづくりに関する情報の公開はもとより、住民が「自分たちのまちを自分たちで治める」そのためには、積極的に自治体行政に参画し、意見を開陳し、住民と行政とが協働して創意工夫しながら生き生きとした個性あるまちづくりを進める「分権型・参加型」まちづくりをめざさなければなりません。

Q まちづくり探検隊 そこまで市民参加のまちづくりを推進しようと思われたのは何なのでしょうが。

A 橋本市長 私も以前は市の職員でした。助役時代に箕面市の駅前にコミュニティセンターが建設されました。その後、市民にこのコミュニティセンターをどう使うかアンケートをとったときのことです。「なぜ、建設前に意見を聞いてくれなかったのか!」という声が大半を占めたのです。このとき市民の意思を反映させることの重要性を身にしみ思い知らされました。このことがきっかけとなり現在の私があると考えています。

Q まちづくり探検隊 「市民参加条例」制定までの経過を教えてください。

A 橋本市長 私は、第一期目から道路や公園のハード整備についても、ワークショップなどの市民参加手法を用いてきました。こうした具体的な活動をさらに制度的に保証していくために、市民参加のルールなどについて条例化するべきではないかと考えていました。そして、「まちづくりの主体は市民である」ことを明確にうたい、「市民参加の理念と方向性」を示し、これらを具体的な条例・制度としたのが「市民参加条例」です。

Q まちづくり探検隊 「市民参加条例」の内容を教えてください。

A 橋本市長 「市民参加」にはさまざまな考え方があります。本条例では、市民参加の語義を「市の意思形成の段階から市民の意思が反映されること、及び市が事業を実施する段階で市と市民が協働すること」と定義しています。そのなかで、公文書や会議における行政情報の公開の原則や、各種審議会や委員会などの委員の一般市民公募の拡大、そして住民投票制度等が盛り込まれています。

箕面市のまちづくり条例に関する紹介パンフレット(一部)



Q まちづくり探検隊 21世紀に向けての市民が主役のまちづくりとは?

A 橋本市長 まちづくりにおける市民参加は、市民と行政の不断の取り組みが必要であり、行政においては市民の参加しやすいシステムを開拓し続けなければなりません。また、市民が主役のまちづくりとは、市民が何があってもやみくもに政策の意思形成段階から参加をしなくてはならないというものではなく、市民があらゆるジャンルにおいて主体的にさまざまな形で取り組んでいる市民活動も立派な市民参加です。現在、箕面市では箕面版NPO条例を制定して、箕面市における非営利公共的市民活動団体の認証とそれに基づく人的・財政的支援を行うことにより、市民との協働のまちづくりを進めたいと考えています。

箕面市における「市民参加条例」の制定は、とりもなおさず主権者である市民が主役となって、行政とともにまちづくりを創意していくための装置を整えたのにすぎないのであって、この条例の理念や目的が市民・行政の具体的な活動のなかに生かされてこそ初めて、箕面市は21世紀に「分権型・参加型」のまちづくりを実現していくことになると考えています。



橋本市長とまちづくり探検隊

まちづくり探検隊がさがしてきた! 他都市もこんなに進んでいる!!

飯田市

施策策定委員の一般市民公募 「協働」のまちづくりを実現するためには、施策策定の段階で市民の声を取り入れなければなりません。そこで、市の基本構想など市民に関心の高い施策を策定する際に、一般市民を公募して、施策形成の段階で意見を述べてもらおうという動きが最近始まっています。全国でも先進的なのが、長野県の飯田市です。ここは96年にスタートした市の第四次基本構想を策定する際、市民の声を積極的に取り入れるため、市民から40人の委員公募をしました。そして、委員と行政職員とで、「飯田まちづくり会議21」を3ヶ月半の間に20回重ねて、自分達のまちのいいところ、悪いところ、こういうまちになったらいいなという夢など自由に話してもらい、それを長期総合計画の中に積極的に取り入れるよう働きかけたのです。

鎌倉市

NPO(非営利組織)支援制度 阪神淡路大震災や重油流出事故での市民によるボランティア活動などをきっかけに、NPOの活動が活発になってきました。こうした動きに対して、NPOに法人格取得の道を開くNPO法(特定非営利活動促進法)が昨年12月に施行されたのは記憶に新しいところです。このNPOを新たな市民参加のあり方として、全国の市でも支援体制を整える動きが出てきています。その中でも先進的なのは鎌倉市です。ここは、NPO法成立後、福祉や環境、国際支援など様々なボランティア活動を支援する拠点としてNPOセンターを市内の二カ所にオープンし、このNPOセンターを公設市民運営にしました。公設市民運営とは、市が施設を無料で提供し、その運営は公募で選ばれた市民に任せるということです。また、NPOを支援するための市民サポート委員会を作り、さまざまな方法で支援活動を行っています。

コラボレーション あなたの協働度チェック!

- 市民・行政の協働関係は、市民の側が口を開けて待っていれば行政がかかってやってくれるというものではありません。市民の側も自分たちのまちに深い関心をもち、普段から市の発信する情報の収集に努めることが必要です。箕面市が「まちづくりの主体は市民」とうたっているのは、そういった意識の高い市民が多いということを示しています。三原市もいろいろな形で情報の開示と交流に努め、市民と行政の協働の関係を模索しています。あなたは、どれだけまちづくりに関心を持っているでしょうか。以下の質問に答えてみてください。
① 「広報みはら」は毎月丹念に目を通している(・x)
② 秘書広報室宛に「市民の声はがき」を出したことがある(・x)
③ 「まちづくり出前講座」を頼んだことがある(・x)
④ 市議会を傍聴したことがある(・x)
⑤ 選挙には欠かさず行っている(・x)
⑥ 三原市の借金がいくらくらいか知っている(・x)
⑦ 三原市長や議員さんなど行政の人とまちづくりに関して話をしたことがある(・x)
⑧ 町内会行事や沼田川清掃など地域の活動に積極的に参加している(・x)
⑨ 第四次三原市長期総合計画基本構想策定審議会委員の一般市民公募に応募した(・x)
さて、いくつ該当しましたか。行政が発信する情報が広く市民に普及していく、あるいは市民の要望が行政に伝わる、こういった情報の流れは市民・行政両方が意識を高くもち、ネットワークが適切に機能してはじめて可能になります。しかし残念ながら、これらの情報の流通という点では十分に機能していないのが現実です。そこで、重要な役割を演じることができると、我々青年会議所だと考えます。これからも、他の市民団体とのネットワークを大切にしながら、市民・行政に理想とする市民参加のまちに向けての思いを伝えてまいります。そして、市民団体や市民の施政への参加意識の高揚をめざすと共に、行政の意識改革を進めていくことが大切になってくると思います。「行政がなにもしてくれないから」ではなく、「市民が主役となって自分たちの手で、よりよい仕組みを創るんだ」という高い意識をもって行動すれば、市民・行政の協働のまちづくりはきっと実現します。21世紀の新しい社会に向け、がんばっていきましょう。

まちづくりウォッチング MACHIDUKURI WATCHING

昨年7月20日から 今年10月31日までの回収量

13,502kg (1.5リットルペットボトル 225,030本分)

- 回収ステーション店舗
ジャスコ三原店
三原スーパーバザール駅前店
三原スーパーバザール日野店
三原スーパーバザール明神店
ベルファニー三原店
フジグラン三原店
ダイマート中町店
ニチエー三原店
ニチエー沼田東店
ニチエー宮浦店
フレスタ三原店
ニチエー宮浦西店
ユアーズ三原店

「グリーンガイドinみはら」ホームページ開設!!



「グリーンガイドinみはら」ホームページを開設しました!

リサイクルで未来クル憩談会では、グリーンコンシューマー育成運動を行っています。環境に配慮した行動をし、買い物をする際にも環境にやさしい商品を選ぶ人を、グリーンコンシューマーといっています。そのための具体的な行動や、リサイクル商品などを紹介したホームページを開設しました。是非あなたもアクセスし、グリーンコンシューマーになってまちづくりに参加してくださいね。

アドレス

http://www.tako.ne.jp/~mjc/eco/

Grid of logos for various member organizations including schools, businesses, and community groups.